

## 国立大学法人大阪大学総長の新たな選考方法について(談話)

大阪大学は、21世紀のグローバル社会において活躍する人材輩出などを目的として文部科学省からスーパーグローバル大学としての採択を受け、世界のトップランクの大学に伍していくため国際競争力の強化を図り、大学を世界に開き、大胆な大学経営・ガバナンス改革に立ち向かうことが期待されています。今こそ、大阪大学は総長のリーダーシップのもと、明確なビジョンを掲げ、構成員が一丸となってこうした要請に応えるときであります。

総長選考会議は、総長のリーダーシップの確立等のガバナンス改革を推進するとの考え方に立ち、昨年9月より、総長選考のあり方について慎重な検討を積み重ね、このたび「総長の選考基準」を刷新いたしました。総長選考会議の主体性を明確にした、新しい選考基準の骨子は次の通りであります。なお、次期総長予定者は、新しい選考基準により選考されることを申し添えます。

- I. 1) 総長の任期は6年。中期の目標実現に専念できるよう配慮。  
2) 総長の業績評価を導入。さらに、総長の解任について明確化。
- II. 1) 「求められる総長像」を明確化。総長選考の基本方針に据える。  
2) 「求められる総長像」に最も相応しい候補者の推薦を広く求める。  
3) 総長選考会議は、推薦された全候補者について、選考会議によるインタビュー（面接）、全構成員に対する所信表明、学内意向調査を実施し、次期総長予定者を決定。

国立大学法人化から11年を経過し、国立大学は大きな転換点を迎え、大阪大学は国内外から多くの期待が寄せられているものと認識しています。総長選考会議は、こうした期待に応え、更なる発展を目指すため、十分な審議を行い、最適任者である総長予定者を決定するように最大限尽力していきたいと考えておりますので、役員及び教職員のご協力をよろしく申し上げます。

平成27年 3月

大阪大学総長選考会議議長  
相澤益男